

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 371 号	氏名	宮崎 健介
学位審査委員	主 査	小路 武彦	
	副 査	上谷 雅孝	
	副 査	永安 武	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、腹腔内スペースと肝再生との関係をラット部分肝切除モデルにて検討したもので、研究目的として妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 成熟ラット雄を用い、先ず部分肝切除後シリコンラバーで残存スペースを充填したものと充填していないラット間で、CT 撮影で再生方向を検討すると共に、経時的に試料採取し PCNA 染色にて DNA 合成細胞の同定を行い、また肝再生に関与する血中 IL-6 及び TNF-α レベルも測定した。続いて、部分肝切除後残存スペースをシリコンラバーで充填しておき、168 時間後に充填物を除去しスペースを導入することによる肝再生への影響を上記と同様に検討しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 以上の検討の結果、シリコンラバー充填群では肝再生形態が異なり、腹腔内圧の低い方向に再生することや、肝重量体重比の低下及び細胞密度の増大が観察された。従って、残存スペース依存的な肝再生の抑制は DNA 合成の阻害ではなく細胞質の肥大抑制であること、更には腹腔内の占拠スペースの消失が肝再生刺激の一つとなることを示した点、これらの研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように、本論文は肝再生への腹腔内スペースの影響を明らかにし、今後の肝移植治療の改善や進展に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			